



熊本市 感染症発生動向調査 速報

●インフルエンザが3週連続注意報レベルです●

感染症発生動向調査で、平成30年 第1週(1月1日～1月7日)の熊本市の定点医療機関あたりの報告数が、21.96(定点数25ヶ所、患者報告数549人)となり、国が注意報レベルの基準値としている10を3週連続超えています。また、インフルエンザA型とB型の報告の割合はB型が半数以上を占めています。

同じシーズンに何回もインフルエンザにかかることがあります。
 引き続き感染予防に努めましょう。



◆インフルエンザウイルスの種類

インフルエンザの原因となるインフルエンザウイルスは、A型、B型、C型に大きく分類されます。

このうち、大きな流行の原因となるのはA型とB型です。

A型インフルエンザウイルスはさらに144種類もの型(亜型)に分けられますが、そのうち、人の間でいま流行しているのは、A/H3N2(香港型)と、A/H1N1(ソ連型)の2種類です。

これらのウイルスはさらにそれぞれの中で、毎年のように小さい変異をしています。

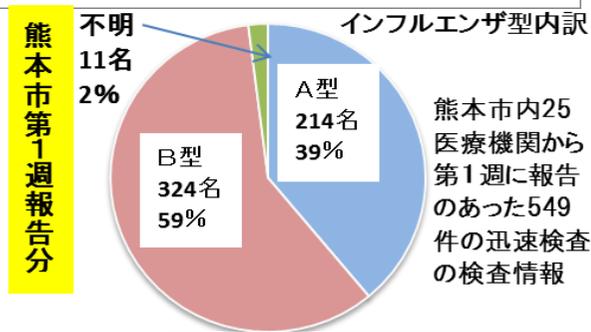
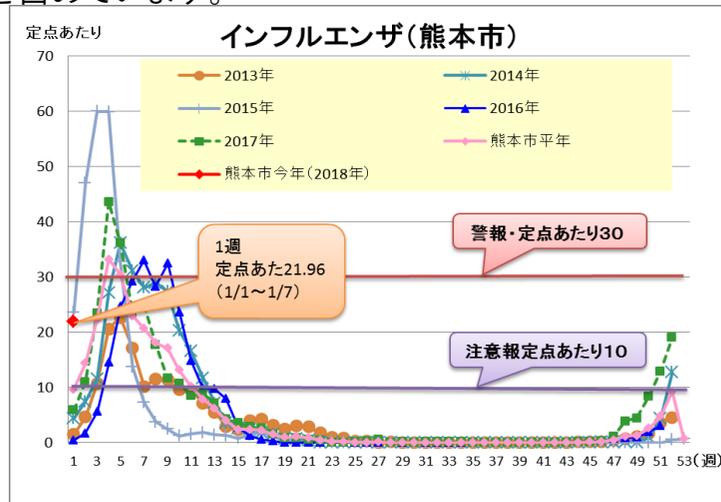
B型インフルエンザウイルスは2種類(山形型、ビクトリア型)ですが、同様にその中でさらに細かい型に分かれます。

これらのA/H3N2(香港型)、A/H1N1(ソ連型)、B型が同時期に流行することがあります。

それぞれの細かい型に対する免疫反応(抵抗力)は少しずつ異なります。

同じシーズンの中でA型インフルエンザに2回かかったり、A型インフルエンザとB型インフルエンザにかかったりすることがあるのはこのためです。

[厚生労働省冊子 インフルエンザの基礎知識より引用]



期 間		平成29年 52週		平成30年 1週	
		12/25～12/31		1/1～1/7(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	注意報!!	477	19.08	549	21.96
RSウイルス感染症		2	0.13	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)		8	0.50	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18	1.13	9	0.56
感染性胃腸炎		97	6.06	34	2.13
水痘(みずぼうそう)		11	0.69	9	0.56
手足口病		14	0.88	9	0.56
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	1	0.06
突発性発しん		8	0.50	5	0.31
百日咳 (平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)		0	0.00	-	-
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		1	0.06	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		22	4.40	8	1.60
細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

熊本市内25
 医療機関から
 第1週に報告
 のあった549
 件の迅速検査
 の検査情報